



反対「離党覚悟」 賛成「山越えた」

消費増税法案、民主「分裂」

消費増税関連法案を巡り
民主党が事実上の分裂状態
になった26日、東京選出の
民主の衆院議員の間でも賛
否がはっきり分かれた。

法案を可決し、閉会した
午後3時半ごろ。小沢グループ
幹部の東祥三氏（東京
15区）が議場から姿を見せ
ると、大勢の記者やテレビ
カメラが取り囲んだ。「國
民に対する極めてきつい裏
切りだと思う。江東区選出
なので、まず有権者に反対
票を投じたことをきちつと
報告したい」。さらに、「そ
れなりの覚悟をして反
対票を投じた。離党する覚
悟でいる」と話した。

午後4時に衆議院第一議
員会館で始まつた小沢グル
ープの会合に出席した木村
剛司氏（東京14区）は「支
持者からは（法案に）反対
を求める声が多く寄せられ
た」と語った。

江東区の東氏の後援会事
務所には支援者が駆けつけ、テレビの国会中継で採
決を見守った。「東祥三さ
ん、反対票です」とのアナ
ウンスが流れるごとに画面を
凝視。「党員の縛りがある
中、57はすごい」「執行
部は処分できないだろう」
などと満足した様子だった。

採決後、事務所の電話が

相次いで鳴つた。「消費増
税反対の姿勢を評価する。
他の選挙区だが、後援会に
入りたい」といった内容だ
ったといい、秘書が対応に
追われていた。

長島昭久氏（東京21区）
は賛成票。立川市内の事務
所では、秘書ら数人がテレ
ビ中継を見守った。

と秘書は振り返る。
この日の採決後、取材に
応じた長島氏は「一つの山
を越えた」と安堵したが、
「党内議論が全く折り合え
なかつた。残念のひとつこと
だ」と語った。

造反者の処分について
「内心は増税反対でも、苦

れまで反対派の説得にあた
ってきた。採決前日の25日
朝には立川駅で街頭演説。
消費増税の必要性を訴え、
「先送りは許されない」と
書いたビラを配つた。好意
的な反応ばかりではなく、
「聞きたくない」という
そぶりが見える方もいた

渋の決断で賛成した人もい
る。おどがめなしではその
人たちが報われない」。
マニフェスト軽視との批
判も根強いが、「国民も將
來にツケを残すべきではな
いという思いがある。そこ
に働きかけてきたつもり
だ」という。